

知る 広がる 好きになる

たかつき DAYS

令和2年

7

No.1388

高槻から始まる、新しい物語

Interview
棋士
ダンサー
古森悠太さん
松岡つぐみさん

高槻から始まる、新しい物語

好きなことに、真っすぐ一本勝負。
高槻からプロの世界に飛び込んだ、若い二人を取材しました。

古森さんの My History



小学3・6年生

対局があれば、どこへでも!

お父さんが近畿圏内の試合を調べ上げ、片っ端から参加申し込みをしていた小学生時代。写真はどちらも準々決勝の様子。「なぜかベスト4で終わることが多いんですよ〜。安心しちゃうんですね?」。



小学4年生

将棋の名所でパシャリ

お父さんに連れられて、通天閣の真下に立つ王将碑で記念撮影。大正時代の将棋名人・坂田三吉を偲んで建てられたものです。

風格は大人顔負け!?



小学4年生

お風呂上がりに将棋の特訓

お風呂上がりに、専門書で将棋を研究中。毎日、登校前と下校後に、合わせて2〜3時間は将棋の練習をしていたそう。

Story 1

子どもの頃から続く
将棋界での戦い

Interview

棋士 古森 悠太さん

Profile

1995年生まれ。中学1年生で奨励会に入会。2017年、22歳にして棋士の世界へ進み、2020年3月には五段に昇格。棋風は、早い仕掛けを優先する攻めの将棋。長時間の対局も得意とする。『角交換四間飛車の新常識 最強△3三角型』著。



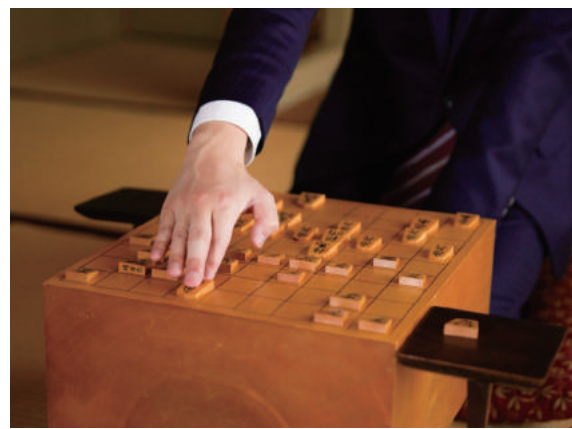
根気強く将棋に
向き合い続ける毎日

小学2年生の時、おじいさんに将棋を教えてもらったのが全ての始まり。1年後にはほとんど負けることがなくなったという驚きのエピソードをきっかけに、古森さんの将棋人生がスタートしました。「小学3年生から、大阪市内の関西将棋会館でスクールを受講。併設する将棋道場では、おじいさん相手に、楽しく将棋を特訓していました」。

当時はプロになるなんて夢にも思わなかった古森さんですが、横で見ているお父さんは違いました。「これはいける」と確信してからというもの、数々の将棋大会に申し込み、息子の成長を全力で応援。「僕よりも父の方が熱心だったくらいです。対局で負けると、厳しい意見をもらうことも…。今振り返ると、父のおかげでここまでこれたと思います。本人は将棋を指せないんですが(笑)」。

インターネット将棋で対局数を増やし、詰将棋の問題を、毎日50問。将棋の魅力にどっぷり浸かる日々を経て、中学3年生で1級に昇級し、奨励会※に入った古森さんには、プロへの道筋が見えるようになっていました。

とはいえ、その道は、なかなか険しいものでした。「このあたりから、勢いだけでは勝てなくなり、1級から初段に上がったのは20歳の時。有段者の壁にぶつかって、将棋から目をそむけてしまった時期も。なので、まさか2年後にプロになれるとは、思ってもみませんでした」。そこから怒涛の追い上げを見せ、古森さんは現在、五段に昇格。わずか24歳にして、将棋本も執筆しています。今も、高槻暮らしを続ける古森さん。「高槻はアクセスが良く、試合で遠征する時も便利。温かい雰囲気のある街なので、将棋で疲れて帰ってきた時に、ほっと安心します」と話してくれました。



※奨励会…日本将棋連盟の棋士養成機関。三段から6級で構成されている。四段からは棋士となりプロ扱いとなる。

Profile

1998年生まれ。三島高校ジャズダンス部で、国際大会部門優勝。卒業後はダンスチーム「WORLD WINGS」に所属し、二つの世界大会で部門3連覇。ソロコンテスト出場、映画出演、ダンススクールのコーチングなど、幅広く活躍中。得意分野はヒップホップ、ロック、ハウス。

Story 2

Interview

ダンサー
松岡 つぐみさん

4歳からずっと夢中、
365日ダンス一筋



読書好きのお母さんに連れられて、よく訪れていたという小寺池図書館。借りるのはいつも、将棋の本というのがお決まり。

高槻で誕生する 未来の棋士が楽しみ

高槻城跡から江戸時代の将棋の駒が多数発掘されるなど、将棋と縁が深い高槻。現在、最年少の古森さんを含む7名の方が、高槻出身・在住の棋士として活躍しています。

さらに、平成31年からは、日本将棋連盟と協同で、関西将棋会館の高槻校「子ども将棋高槻サテライト教室」もスタート。将棋への熱が、高槻でじわじわと高まりつつあります。

古森さんは、サテライト教室の講師としても活躍中です。「中学生以下の子どもを対象に、講義と実践で、将棋の基礎を教えています。人に教えるって、本当に難しいですね。特に講義は、専門的な内容になってしまいうので…。でも、勉強熱心な子どもたちもたくさん。いつか、この教室から棋士が登場して、高槻の出身同士で師弟関係が結べたら、素敵だなと思います」。

高槻の将棋界を牽引している古森さんに、自身の夢を聞きました。「観る人がハラハラするような、エキサイティングな将棋を指したいです。また、将棋だけでなく、人としても応援したくなるように」。

高槻を舞台にした ダンス一色の青春時代

太陽に負けない、とびきり明るい笑顔が輝きます。松岡さんは、3年前に高校を卒業して、プロダンサーの道を歩み始めたばかり。この短期間に、世界的な大会で優秀な成績を収めてきた実力派です。

松岡さんとダンスの出合いは、4歳の時のことでした。「何か習い事がしたい」と思い、たまたま初めて見学したのが、ダンスでした。母によると、レッスンを見た途端、これがいい！とその場から離れた途端、これがいい！とその場から離れた途端、これがいい！と。ピアノ、そろばん、習字…。他にもいろいろチャレンジしたけれど、長くは続かず。結局、ダンスが一番楽しかったんです」。

それ以来、高槻のダンススクールに通い続け、市内で開催されるイベントにも、数多く参加してきた松岡さん。「高槻はイベントが多いので、幼い頃からステージの経験をたくさん積むことができました。高槻まつりやこいのぼりフェスタへの出演は毎年恒例。多くの方に温かい声援をもらい、ワクワクしたことを覚えていきます」と振り返ります。

その後、松岡さんは三島高校に進学

な魅力的な棋士になっていきたい。新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインで対局を配信するなど、新たな試みも増えています。より多くの人に将棋を楽しんでもらうきっかけになれば、嬉しいです」。

穏やかな印象とは裏腹に、勢いのある将棋が特長の古森さん。これからの活躍に期待が高まります。



子ども将棋 高槻サテライト教室

会場：クロスパル高槻
問合せ TEL:06-6451-7272
(日本将棋連盟 関西本部 普及部「高槻教室」係)
※要申し込み、料金はクラスにより異なる。

して、全国大会の常連だったジャズダンス部に入部。世界を目標に練習に打ち込みました。「大好きなダンスを、職業にしたいと決めたのは、高校3年生の時。国際大会に出場し、アメリカという大舞台で部門優勝したことが、大きなきっかけになりました。進路に悩んだ時もありましたが、自分のやりたいことを模索するなかで、やっぱり踊ることが忘れられなかったんです」。

こうして、松岡さんは高槻を拠点に、厳しいプロの世界を歩み始めることを決めたのです。



今でも週に一度は、部活の指導のため高校を訪れる松岡さん。ジャズダンス部の顧問を務める小林先生は、高校3年生の時、アメリカ遠征を引率した恩師です。



文化祭の舞台にもなった体育館のステージで。

高校卒業後も、松岡さんの勢いはとどまることを知らず。映画やアーティストのミュージックビデオに出演するなど、活動の幅を広げる一方で、ダンスチーム「WORLD WINGS」にも所属。世界中のダンスチームがしのぎを削る二つの大会※にヒップホップの部門で出場し、両大会で3年連続優勝を果たしました。

踊ったあとはすっきり！ ダンスは元気の源



部活の休憩中、部員のみんで遊んだ思い出の中庭。

「こうして振り返ると、ダンスばかりの人生ですね(笑)」と松岡さん。彼女にとって、ダンスとはどんな存在なのでしょう。高校卒業後も、松岡さんの勢いはとどまることを知らず。映画やアーティストのミュージックビデオに出演するなど、活動の幅を広げる一方で、ダンスチーム「WORLD WINGS」にも所属。世界中のダンスチームがしのぎを削る二つの大会※にヒップホップの部門で出場し、両大会で3年連続優勝を果たしました。

※二つの大会…「ICUチアリーディング世界選手権」と「THE DANCE WORLDS」。



自然豊かな街並みは ランニングにぴったり

持久力を高めるためには、自主的なトレーニングも大切。気持ちの良い川沿いの道が、いつものランニングコース。自宅から少し足を延ばして、今城塚古墳まで走ることも。



自宅はダンスにまつわる 思い出でいっぱい

トロフィーやメダル、チャンピオンリングの横には、仲間にももらったお守りやメッセージカードも。ダンスを通して得た思い出の品が、松岡さんにエネルギーを送っています。



松岡さんの My History

6歳

ダンス教室での ミニ発表会

楽しみで仕方なかったダンス教室。小学校の高学年からは、オーディションを受けて、選抜クラスでレッスンを受けるようになりました。



3歳

おうちで 一人ダンス♪

どこか誇らしげな表情がとっても可愛い！ダンスを習い始める前から、踊ることが大好きだったようです。バランス感覚もバッチリ。



20歳 世界選手権で優勝

3連覇を果たした大会の一つ、ICUチアリーディング世界選手権にて。「各国の選手同士で健闘をたたえ合い、応援し合うことに、ダンスの大会の素晴らしさを感じました」。



高校生 念願だった国際大会に出場

国際大会に出場するためアメリカへ。ヒップホップのラージ編成で部門優勝したことが、今後の進む道を決める転機になりました。

発見！

たかつきの若きスター図鑑

高槻出身の若きスターは、まだまだたくさん。その一部の方を紹介します。



●けん玉●
きしもと いちか
岸本 唯愛さん

学童保育でけん玉に出会い、わずか3年で、全国規模の大会に出場するように。2020年、日本けん玉協会ジュニア杯争奪戦で見事優勝。11歳にして小学生日本一の座に輝いた。けん玉界の甲子園といわれる文科杯※で昨年は準優勝。今年は優勝を狙う。

※文科杯…文部科学大臣杯全日本少年少女けん玉道選手権大会。



●フェンシング●
なかうら ゆずき
中浦 柚樹さん

小学1年生から高槻在住の先生にフェンシングを習い、中学生の頃にはナショナルチームの強化合宿に招かれるほどに成長。2018年、JOCジュニア・オリンピック・カップ女子エペで3位入賞。現在は大学に通いながら、インカレ※の優勝を目標に練習に励んでいる。

※インカレ…全日本学生フェンシング選手権大会。



やすぎぶし
●安来節●
たなか
田仲 みなみさん

「どじょうすくい」で知られる島根県の民謡「安来節」で、高校在学中に唄・絃(げん)・鼓・踊・銭太鼓の「師範」に昇格。5種目全ての師範以上資格者は全国でわずか10人。史上最年少での達成が話題に。目標は、安来節全国優勝大会・師範の部での優勝。



●指揮者●
きもと ゆうすけ
木許 裕介さん

学生時代、フランスのピアニスト、エリック・ハイドシェック氏に指揮の道を勧められ、当時の日本最高齢指揮者、村方千之(ちゆき)氏に師事。2018年、BMW国際指揮コンクールで日本人初の優勝を飾る。楽譜校訂やラジオ出演、学生に向けたオンラインでの芸術講義および執筆など、幅広く活躍中。



◀ インスタグラム高槻市公式アカウントで『たかつきDAYS』7月号のこぼれ話を配信中！